

新しい年を迎えました。

今年の干支は戊子(つちのえ・ね)。「戊」は植物が繁栄するように、物事が繁栄するという意味です。

「子」は、陽気の到来と物事の増殖を意味しており十二支の初めの子年は、地中にこもっていた陽気が地上に出て万物が滋るといいます。

今年は新しい生命が創造されるように新しい出来事が起こる、そんな年が予想されるようです。

また、「子」の字は象形文字で子供を意味しています。中国では「子」は敬称を表し、学問があり人格に優れた人に対する言葉です。

例えば「孔子」「孟子」「老子」「孫子」などです。我々がよく使われる例としては子年生まれの人は小まめによく働く人、よく機転の効く人、食い扶ちには困らない人などの時に言われます。

さらに、子(ね)年には政変があると言われます。過去半世紀の4回の子年では3回で首相交代劇が起きています。はたして、年男の福田康夫首相はどう出るのか。攻めて解散権を行使するか、それとも追い詰められて「窮鼠(きゅうそ)」となるか。

いずれにしても私たちの子どもと家族にとって、いい年にしたいものです。



<第151回 ほほえみの会>

新年最初の会は、堀越医師を含め4人の参加でした。

3歳4ヶ月、男の子、悪性脳腫瘍。先月首のところに痛がって泣くようになったのでMRI検査を緊急でしたところ、再々発したことが分かった。ショック。小脳のがんが脳幹に入って脊髄を圧迫したことで神経に障り、痛がったようだ。脳幹から大脳へも入り込んでいる。

放射線治療を始めた。全体とピンポイントの照射を行っているが、当てるごとに痛みが薄まっていく。最初は照射の時に痛みでじっとできず動いてしまうのでモルヒネも使った。放射線は当てる総量が決まっているのでこれから心配。

小学4年の兄は学校帰りは友達の家を転々としている。弟のことをすごく心配しているがどこまで説明していいか分からない。

高校2年生、女の子、慢性活動性EBウイルス感染症。最初は顔にニキビができたと思っていたがやがて水泡ができて皮膚科に行った。いろんな皮膚科を探して県外の病院にも行ったが良くならない。医師が皮膚の病気ではないかもしれないと言われたことから県立総合病院へ行き、病気がわかり、子どもの病気だとのことで8月にこども病院へ。

日光に当たってはいけない。これまで元気でソフトボールの選手だったので、炎天下で日光をいっぱい浴びて楽しんでた。

治療は骨髄移植しかないということでドナーを探した所、幸い見つかった。2月1日に移植を行う。

中学3年の弟と小学3年の妹がいるが、特に弟が姉と母親の心配をしてくれる。移植が決まって入院をした途端、母親がぎっくり腰になってしまった。母親の方が体調を壊してはいけないので、健康に気を遣う。病院での付き添いも疲れる。行き帰りで車の事故を起こさないか心配。また、治療費以外でも出費が多く、経費が大変。

朗報です。春に3人の新しい医師が配属されることになりました。うち、女医さんが一人だそうです。こども病院はチーム医療が日本で一番進んでいる病院で、チームをまとめる三間屋医師を慕って、その元で医療の勉強をしたいという医師が来てくれることになったようです。

次回 は 2月 10日(日) 11時からです

ほほえみの会 代表 池田恵一 TEL054-247-9560

E-mail アドレス k_likeda@yahoo.co.jp

ホームページ <http://www.geocities.jp/hohoeminokai/>